

校内研究の進め方と研究主任の役割



島根県教育センター



1

1. はじめに 2. 研究の意義 3. 研究の進め方 4. 主任の役割

これから求められる教職員の姿

教師が、技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。



「令和型学校教育」の構築を目指して(答申)抜粋
中央教育審議会

3

【流れ】

1. はじめに
2. 校内研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割



2

1. はじめに 2. 研究の意義 3. 研究の進め方 4. 主任の役割

島根県の教職員として求められる基本的な資質能力

- 1 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 2 子どもの発達の支援に対する理解と対応
- 3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- 5 よりよい社会をつくるための意欲・能力

島根県公立学校教育職員人材育成基本方針 島根県教育委員会

「学び続ける教職員」



4

I 授業の質の充実

I 学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業の展開

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進

(2) ICTの効果的な活用

(3) 指導と評価の一体化の重要性に係る理解促進

(4) 学力と学習状況の分析に基づく授業の改善

(5) 各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実



5

【流れ】

1. はじめに
2. 校内研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割



6

校内研究とは・・・

学校教育目標を達成するために、自校の課題等に基づいて、研究主題を設定して、計画的・継続的に教職員が協働で研究し成果を生み出していくもの

校内研究・研修ハンドブック(浜セ)



7

校内研究の意義

- 学校教育目標の具現化
- 児童・生徒の資質・能力の育成
- 教職員の指導力向上
- 教育課程の改善
- 教育内容の質、人的・物的資源の充実

全教職員-連携・協働



同僚性の高まり→校内研究の活性化→学校教育力向上

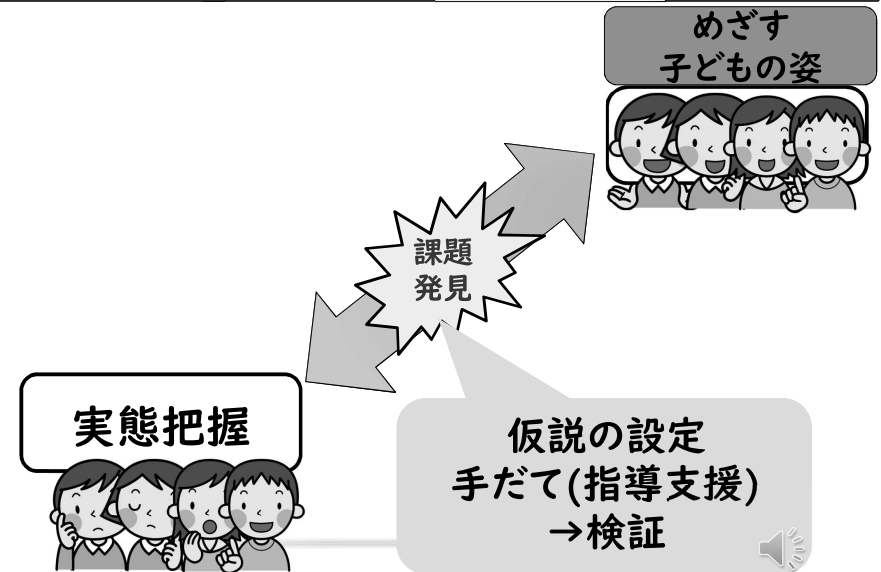
【流れ】

1. はじめに
2. 校内研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割



9

1. はじめに
2. 研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割



1. はじめに
2. 研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割

観察	①子ども・学校等の実態と観察し、課題を分析する。	実態の把握
仮説	② その課題について、子ども・学校等にどうい姿を目指したいのか、何を明らかにしたいのかをまとめる	研究目的の設定
	③ ①を②にするための方法を具体的に検討し、何を明確にする	研究仮説の設定
	④ ③を、具体的には、どのように実践や追及するのかを検討する	実践方法の設定
	⑤ ③が立証されたかどうかを判断する方法を考える	検証方法の設定
検証	⑥ ③に基づいた教育活動を④に従って行う	実践・追及
	⑦ ⑥の結果をまとめ、③が立証されたかどうかを⑤によって検討する	結果の検証
	⑧ ③が機能したのはなぜか、機能しなかったのはなぜかを検討する	考察
	⑨ この研究で何が明らかになったか、また実践上の課題や、さらにどのような教育活動が必要かをまとめる	研究の総括と今後の課題のまとめ

1. はじめに
2. 研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割

1. 研究動機の整理 研究目的（目標）の設定

①実態の把握

- ・学校の教育目標の確認
- ・児童生徒の良い面、課題面の分析
- ・教職員の実態や願い
- ・教育動向

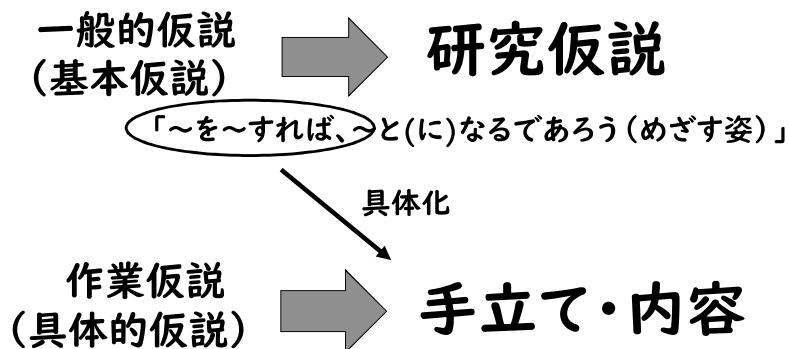
②研究目的（目標）の設定

- ・めざす子ども像→様々な視点から
- ・教育課程や授業改善等



2. 研究仮説の設定

研究主題(テーマ)の設定



焦点化と多様性

13

研究主題

〇〇な子ども(生徒)の育成
～〇〇を活用した授業づくり～

めざす子どもの姿

- ①～する子(生徒)
- ②～する子(生徒)

仮説①

～を～すれば、①の子(生徒)が育つだろう

仮説②

～を～すれば、②の子(生徒)が育つだろう

手立て(仮説①にかかわって)

手立て(仮説②にかかわって)

14

研究の進め方

I型 観察→仮説→検証	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つける ・解決する手立てを見つける ・手立てが効果的かを明らかにする
II型 仮説→検証	<ul style="list-style-type: none"> ・すでにある仮説や方法について、その効果を明らかにする
III型 観察→仮説	<ul style="list-style-type: none"> ・実態や事例の分析を通して、課題等を明らかにする

改めて研究と向き合う教員のためのウォーミングアップ・ブック(浜せ)

15

教科選択について

教科等の選択	長所	短所
特定の教科等を設けない場合	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味・関心のある教科等で主題にせまることができるので研究意欲がわく。 ・多面的に主題にせまることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通した話題での研究の積み上げができにくく研究が空転することもある。 ・理論的な共通理解が十分でない、研究の成果が拡散してしまう。
特定の教科等を設けた場合	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教職員も共通した話題で研究ができ、研究の積み上げが期待出来る。 ・その教科等の専門家のリードを期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味・関心のない教科等では研究意欲が減退することがある。 ・教科等内だけで子どもを良くしようという無理が生ずることもある。

羽豆成二(著) 小学校 校内研究・研修の進め方 文教書院

16

3. 研究計画(実践、検証)の設定

①研究組織の編成

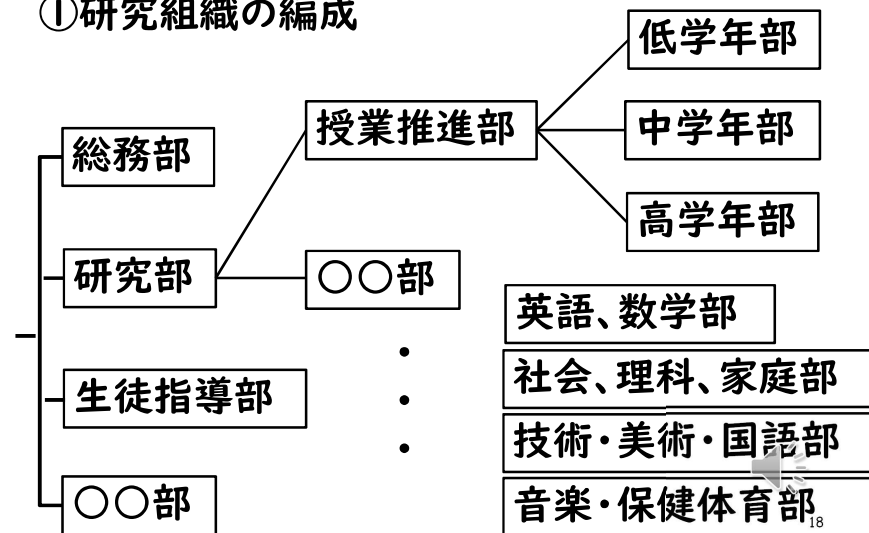
②研究授業、校内研修等の実施計画

③検証計画



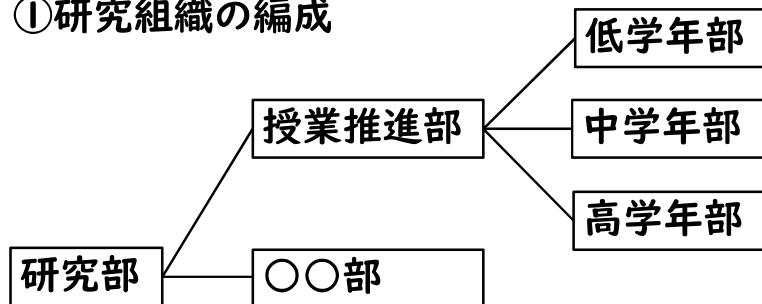
3. 研究計画(実践、検証)の設定

①研究組織の編成



3. 研究計画(実践、検証)の設定

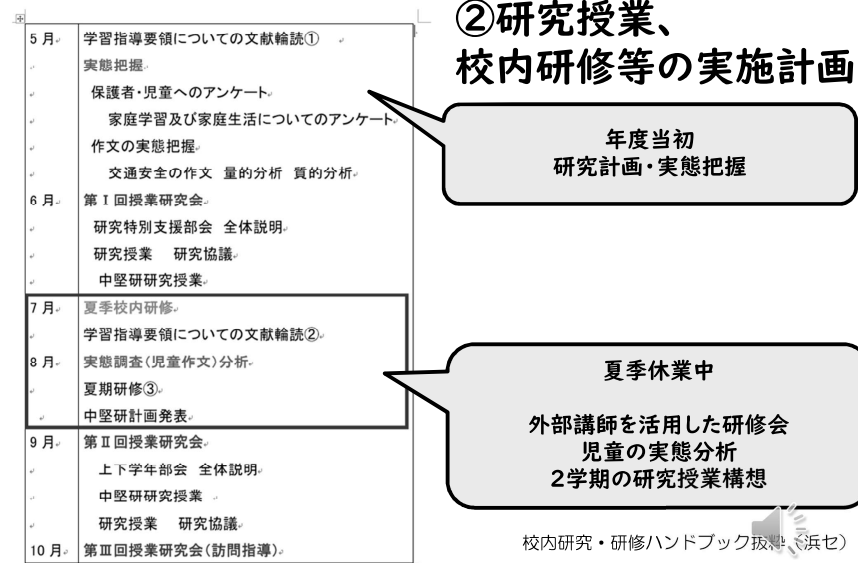
①研究組織の編成



- ・環境部
- ・情報収集部
- ・ICT活用部 etc...



②研究授業、校内研修等の実施計画



3. 研究計画（実践、検証）の設定

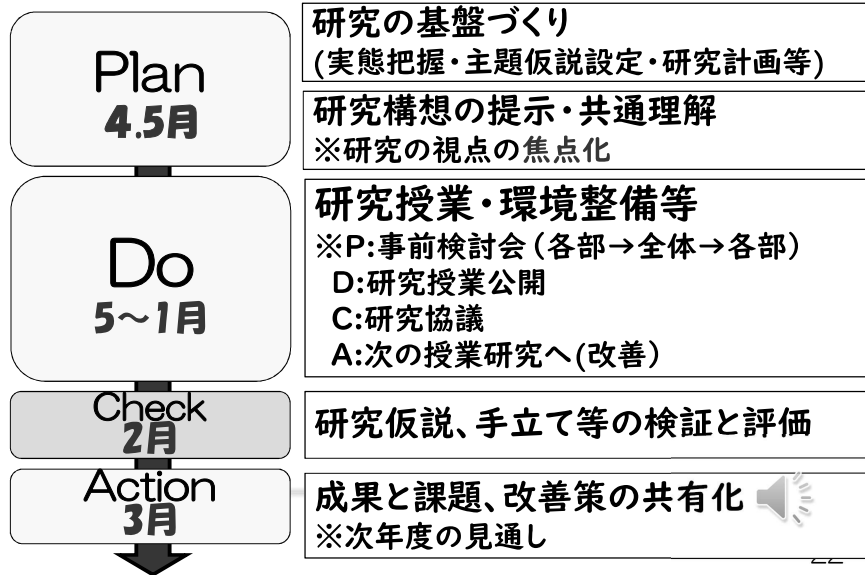
③ 検証計画

- ・研究協議の持ち方、進め方、まとめ方
※根拠（児童・生徒の姿、言動から）を基にした検証
- ・学力調査、アンケート結果の分析
- ・研究集録の作成、プレゼン発表



21

校内研究 PDCAサイクルのイメージ（1年間）



研究構想シート		学校名
		氏名
研究主題 自分の考えをもち、他者と伸びようとする子どもの育成		
研究の目的 自分の考えをもち、他者と伸びようとする子供を育成するための表現の場や方法を明らかにする。		
子どもの実態	手立て・内容（研究仮説）	めざす子どもの姿
○自分の考えをもつのが苦手。十分に記述できない。 ○他者の考えと比べたり、複数の考えを基に自分の考えをまとめたりすることが苦手。 ○学力の差が大きい。	○自分の考えを絵、図、言葉を使って表現する時間をとる。 ○タブレットや、ノート、ワークシートなど多様な表現方法を体験させる。	○自分の考えをもち、表現する子ども ○他者と共に伸びる子ども
検証方法		
○評価規準・分析基準を設定する。 ○タブレットやノート、ワークシートの記述を基に子どもの変容を見取る。		
研究計画		
○子どもの実態、めざす姿、手立てを職員みんなで考える ○1学期授業研究 夏季休業中 授業構想・指導案作成 ○2学期授業研究 ○3学期授業研究 ○授業研究の振り返り		



【流れ】

1. はじめに
2. 校内研究の意義
3. 研究の進め方
4. 主任の役割



24

校内研究は

一人でやらない 一人でやらせない

コーディネーター ファシリテーター



25

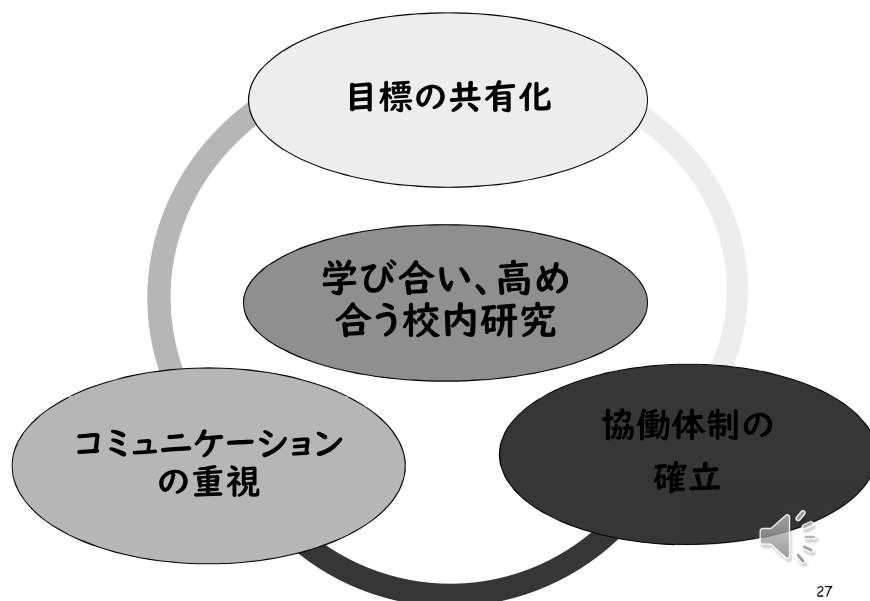
コーディネーター

ファシリテーターとして

- ① 研究計画の立案・実施・まとめ
- ② 研究推進における諸連絡・調整
- ③ 良き相談相手（聞き上手）



26



27